

平成30年3月期
《第2四半期》

決算説明資料

～運輸成績及び事業計画トピックス～

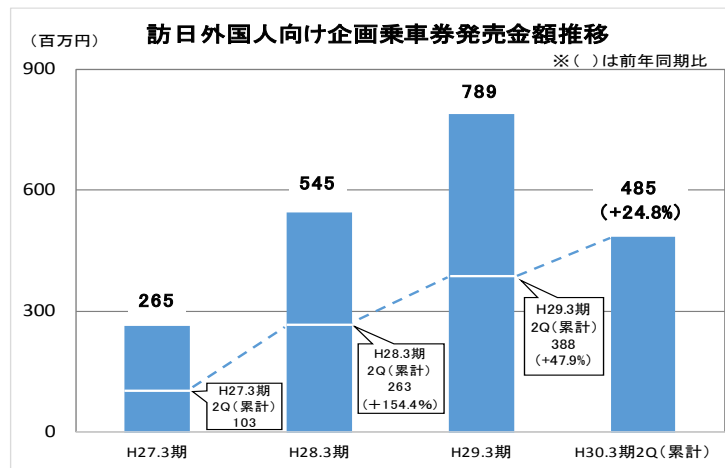
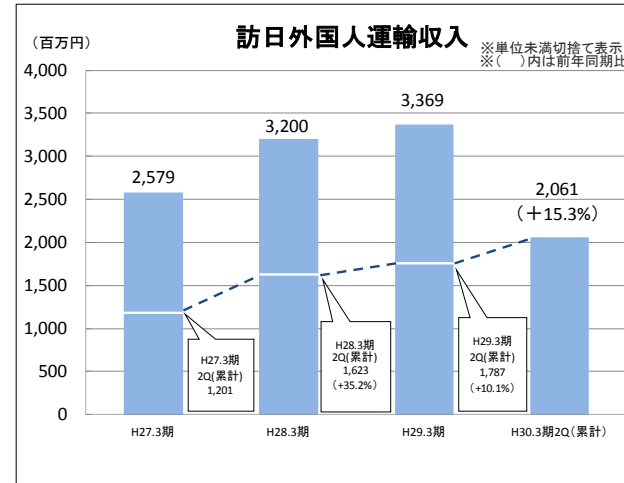
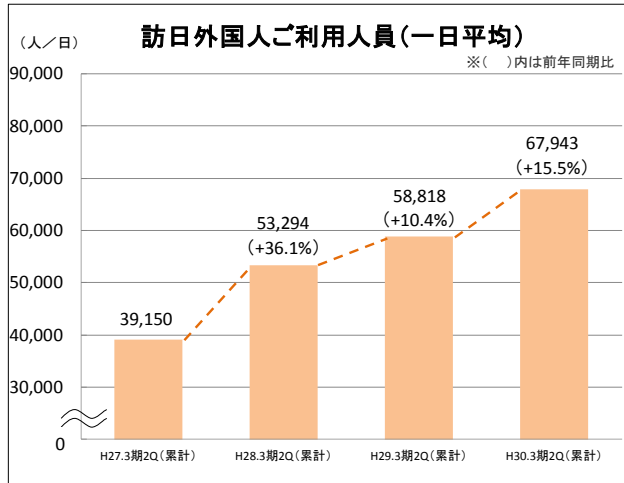
2017年11月13日

東京地下鉄株式会社



平成30年3月期第2四半期(累計)において、訪日外国人のご利用および訪日外国人向け企画乗車券の発売額が引き続き増加しました。

- 訪日外国人の運輸成績への影響につきまして、今期のご利用人員は一日平均約6.8万人、前年同期比で約0.9万人、15.5%の増加、旅客運輸収入は今期が20.6億円、前年同期比で2.7億円、15.3%の増加と推計しました。
- 訪日外国人向け企画乗車券の発売実績は、今期は4.8億円、前年同期比で0.9億円、24.8%増加しました。

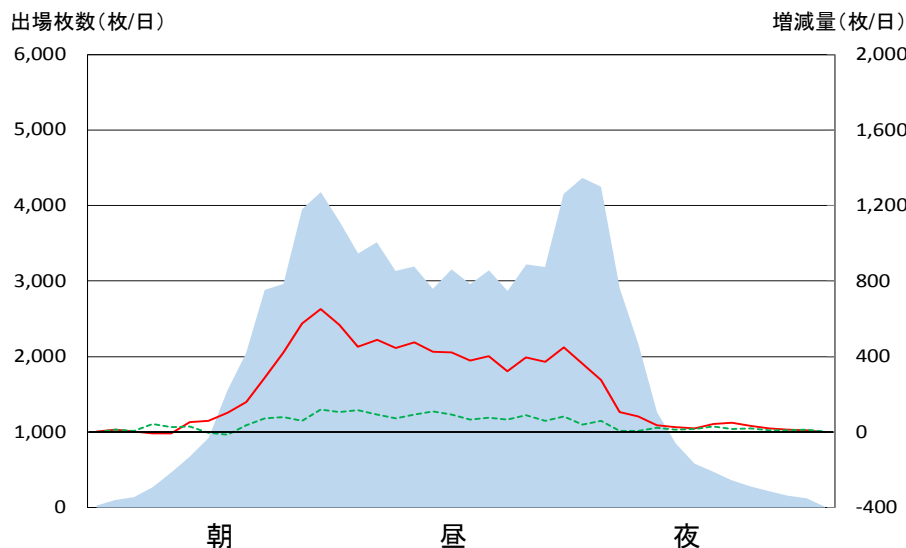


※訪日外国人向け企画乗車券:Tokyo Subway Ticketのうち、羽田空港、成田空港、都内家電量販店、当社旅客案内所等でパスポートを確認して発売したもの

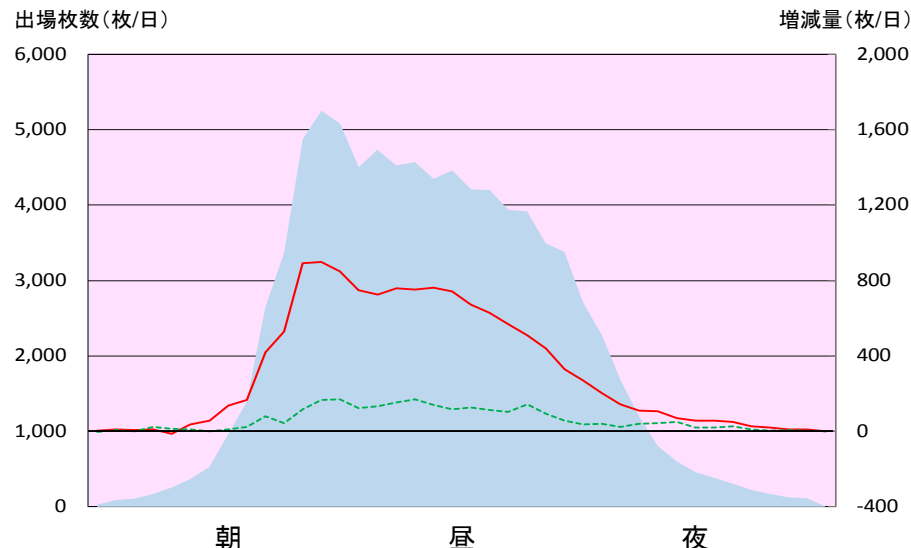
銀座駅改札機データ(時間帯別)

- 銀座駅から定期外でご乗車になるお客様の数が、去年同期と比較して今期は一日あたり約7,400人増加しました。
- 定期外の改札機出場データにつきましては、出場枚数、増減量ともにほぼ全ての時間帯で増加しました。特に休日のご利用が平日を上回っており、多くのお客様に銀座駅をご利用いただいております。
- 出場枚数につきましては、平日、休日ともに昼前のご利用がピークとなっております。買い物や昼食時間に合わせてご利用になっているものと推測しております。なお、平日は夕方にもご利用のピークがあり、仕事を終えてからの飲食及び買い物等でご利用になっているものと考えております。

平日(定期外)出場枚数



休日(定期外)出場枚数



<凡例>

- 平成30年3月期第2四半期1日出場枚数(枚/日): 左軸
- 平成30年3月期第2四半期-平成28年3月期第2四半期増減量(枚/日): 右軸
- 平成29年3月期第2四半期-平成28年3月期第2四半期増減量(枚/日): 右軸

※朝: 始発~10:00 昼: 10:00~17:00 夜: 17:00~終車

キーワード
～「安心の提供」と「成長への挑戦」～

安心の提供

「安心＝安全＋サービス」の考えのもと、「世界トップレベルの安心」を提供する地下鉄を目指し、ハード・ソフト両面での各種施策をこれまで以上に加速させていきます。

成長への挑戦

「安心の提供」を大前提とした上で、新たな価値を生み出す取組みの全てを「成長」と位置づけます。

経営基盤の強化

「安心の提供」「成長への挑戦」の実現を確かなものとするため、経営基盤の強化を図っていきます。

私たちの決意

安心 = 安全 + サービス

～全てのお客様に安心してご利用いただくために～

全てのお客様に東京メトロを「安心」してご利用いただきたい。
それは、たゆみなき「安全」の追求と、お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供、
この双方がそろって初めて可能になると私たちは考えます。
私たちは、お客様に「安心」をお届けできるよう、より一層努力していきます。

項 目	主 な 取 組	
<h2>安心の提供</h2>		
	自然災害対策	高架橋柱及び石積み擁壁の補強、出入口への浸水対策
	鉄道の安全・安定運行に向けた取組み	ホームドアの整備、「見守る目」の強化、新型車両の導入
	輸送サービスの改善	東西線の輸送改善(大規模改良工事、「オフピーク通勤(通学)」の推奨)
	バリアフリー設備整備	全駅へのエレベーター1ルート整備、複数ルート整備
	銀座線リニューアル	駅改装、90周年記念イベント、渋谷駅移設工事
	利便性・快適性向上	案内サインのリニューアル、多言語でのご案内の充実
東京の地下鉄サービスの一体化	乗換駅の追加設定、次世代券売機の導入	
<h2>成長への挑戦</h2>		
	お客様ニーズへの対応	「Tokyo Subway Ticket」の販路拡大、各種イベントの実施
	東京とともに成長	公募型連携プロジェクト、日比谷線虎ノ門新駅(仮称)の整備
	関連事業の拡大	不動産事業、流通事業、広告事業の積極的な展開
	海外鉄道事業の新たな展開	ハノイ市都市鉄道整備への支援、国際協力・国際交流の推進
	新たな事業領域への挑戦	アクセラレータープログラム
新技術の開発・導入	駅構内ナビゲーションサービス	
<h2>経営基盤の強化</h2>		
	経営基盤の強化	人財育成、環境保全活動、社会貢献

全駅へのホームドア整備に向け、取組みを加速させます。
2017年度は14駅にホームドアを設置します。

- すべてのお客様に安心してご利用いただけるよう、これまでの設置計画を前倒し、2024年度までに1日10万人以上のお客様がご利用になる駅への整備を完了させ、2025年度までに全駅のホームドア設置を目指します。

2017年度 ホームドア設置予定駅(14駅)

Ⓒ 銀座線

浅草駅、田原町駅、稲荷町駅、上野駅、上野広小路駅、末広町駅、神田駅、三越前駅、日本橋駅、赤坂見附駅、青山一丁目駅、外苑前駅

Ⓓ 東西線

九段下駅

Ⓔ 半蔵門線

九段下駅

赤字は現時点で供用開始済の駅

2017年度末
設置率55%予定
(現時点での設置率: 51%)

各路線における取組状況と今後の計画

現時点(2017年11月13日)までの取組状況

今後の計画

Ⓒ 銀座線

浅草駅～神田駅の計7駅で供用開始

▶ 2018年度上期全駅設置完了予定
大規模改良工事を行っている渋谷駅を除く

Ⓜ 丸ノ内線

全駅設置済

ⓗ 日比谷線

ドア位置を合わせるために新造車両を現在14編成導入(2020年度から設置開始)

▶ 2022年度全駅設置完了予定

Ⓓ 東西線

九段下駅で設置を開始(2018年2月供用開始)

▶ 2025年度全駅設置完了予定

Ⓒ 千代田線

設置に向けて調整中(2018年度から設置開始)
北綾瀬駅・綾瀬駅(北綾瀬方面行ホーム)設置済

▶ 2019年度全駅設置完了予定

Ⓨ 有楽町線

全駅設置済

Ⓔ 半蔵門線

九段下駅で設置準備中(2018年1月設置開始)

▶ 2023年度全駅設置完了予定

Ⓝ 南北線

全駅設置済

ⓕ 副都心線

全駅設置済



ホームドア設置後のホームの状況(銀座線浅草駅)



ホームドア設置作業の様子(東西線九段下駅)

「見守る目」の強化

- 目の不自由なお客様のご利用が特に多い駅のうち、現在7駅において、安全確保上の連携を図るために、ハンズフリー型インカムの活用を開始しました。
- 飯田橋駅構内において、法政大学の学生による介助を必要とするお客様に対するボランティア活動を開始しました。



ハンズフリー型インカム



学生によるボランティア活動の様子



周知ポスター

その他の駅ホームの安全性向上施策

- ホーム上での線路内転落・列車接触事故防止及び駅係員・乗務員のホーム監視業務の視認性向上を目的とした「注意喚起シート(スレッドライン)」を、新たに5路線34駅に追加設置し、2017年12月末までに合計5路線70駅への設置が完了します。



「注意喚起シート」の設置状況（日比谷線）

全駅の改装やホームドアの設置をはじめとする銀座線リニューアルを進めます。
2017年度は下町エリアの駅改装等が完了するとともに、
地下鉄開通90周年を記念したイベント等を実施します。

駅改装

新 **G** 路線コンセプト【伝統×先端の融合】
Renewal!

- 下町エリア(浅草駅、田原町駅、稲荷町駅、上野駅、上野広小路駅、末広町駅、神田駅)については駅改装工事を進めており、2017年12月の地下鉄開通90周年に合わせて主要な部分が完成します。
- 銀座駅については、デザインが決定し、2017年11月からリニューアル工事に着手します。



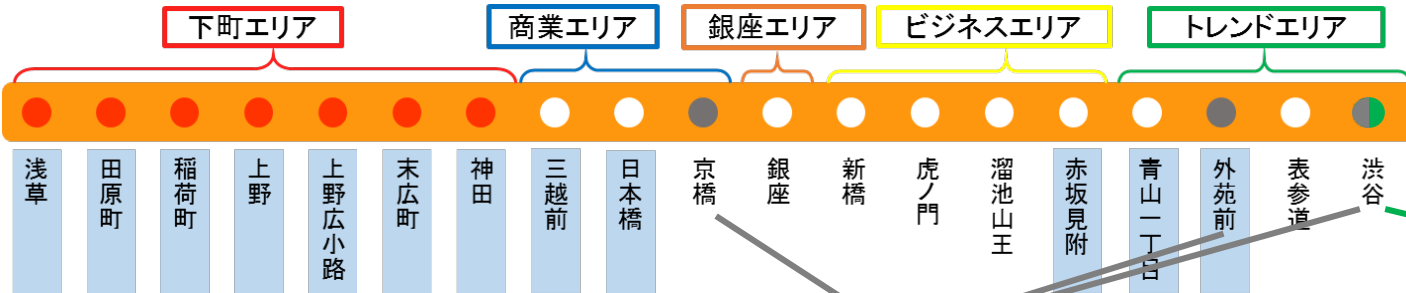
銀座駅改装イメージ (テーマ:「銀座のまちの地下1階」)

地下鉄開通90周年を
記念した各種イベント
等の実施

- 2017年10月27日から2018年1月24日までの90日間を中心として、スタンプラリー等の各種イベントを実施しています。

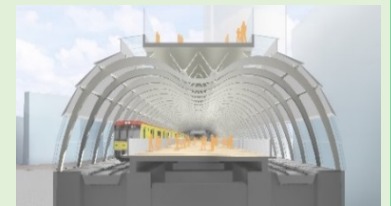


「TOKYO METRO 90 Days FES!」
ロゴマーク



渋谷駅移設工事

2019年度新ホーム
供用開始予定



移設工事後の渋谷駅イメージ(ホーム)

再掲

ホームドアの整備

- 浅草駅～神田駅の計7駅で供用を開始しました。

バリアフリー設備整備

- 渋谷駅において、2017年4月にエレベーター1ルートを整備しました。
- 京橋駅、外苑前駅においては、今年度中のエレベーター1ルート整備に向けて、工事を進めています。



混雑緩和が喫緊の課題である東西線においては、最盛期を迎えている大規模改良工事を着実に進めます。

輸送サービスの改善

東西線の輸送改善(大規模改良)

【茅場町駅 大規模改良工事】

ホームを延伸して、お客様の流れを分散し、日比谷線への乗り換えをスムーズにします。



改良後イメージ

【木場駅 大規模改良工事】

ホームとコンコースを拡幅して、お客様の流れを分散し、混雑緩和を図ります。



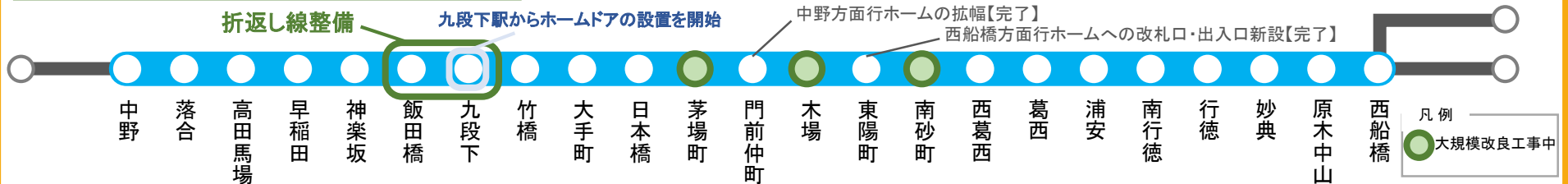
改良後イメージ

【南砂町駅 大規模改良工事】

線路・ホームを増設し、列車の交互発着を行い、遅延防止と混雑緩和を図ります。



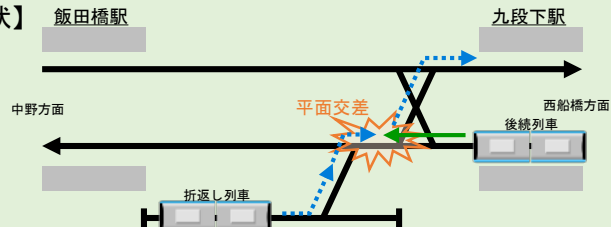
改良後イメージ



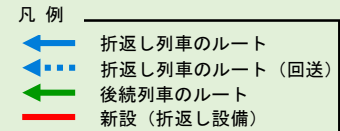
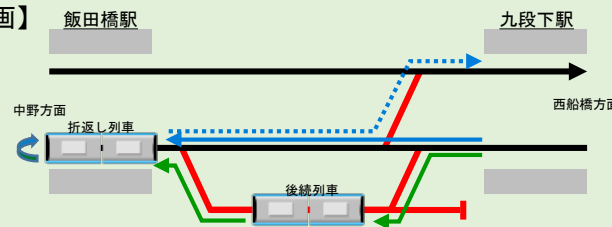
【飯田橋駅～九段下駅間 折返し線整備】

平面交差を解消し、将来の列車増発を可能にします。

【現状】



【計画】



「安心の提供」と「成長への挑戦」をキーワードに、
各種施策を積極的に進めています。

輸送サービスの改善

東西線の輸送改善(「オフピーク通勤(通学)」の推奨)

- 混雑緩和・遅延抑制に有効な「オフピーク通勤(通学)」のさらなる推進を図るため、これまで冬季(12月~2月)及び春季(4月~7月)の期間に実施していた「早起きキャンペーン」について、より多くのお客様にご参加していただくため、2017年9月25日より、通年で実施することになりました。



キャンペーンポスター

- 2017年7月11日~14日、18日~21日(計8日間)の早朝時間帯に、臨時列車「時差Bizトレイン」を運転しました。
- 東西線一部駅に発車時刻・号車別の混雑状況をお知らせするポスターを掲出しました。



混雑状況お知らせポスター

関連事業の拡大

不動産事業

- 鉄道事業とのシナジー効果の発揮を基本とした土地の取得・開発として、野村不動産(株)との共同開発により、2017年6月27日に中規模ハイグレードオフィスビル「PMO半蔵門」を竣工しました。



PMO半蔵門

新たな事業領域への挑戦

新たな事業領域への挑戦

- 外部連携による新たな事業領域への挑戦として、MAMORIO(株)及び(株)Tadakuとそれぞれ実証実験を開始しました。



お忘れ物自動通知サービス
(MAMORIO(株))



訪日外国人向け料理教室
「Tadaku - with locals」(株)Tadaku

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も見据え、 全てのお客様に「安心」して地下鉄をご利用いただけるよう、 過去最高の規模となる1,530億円の設備投資を計画しています。

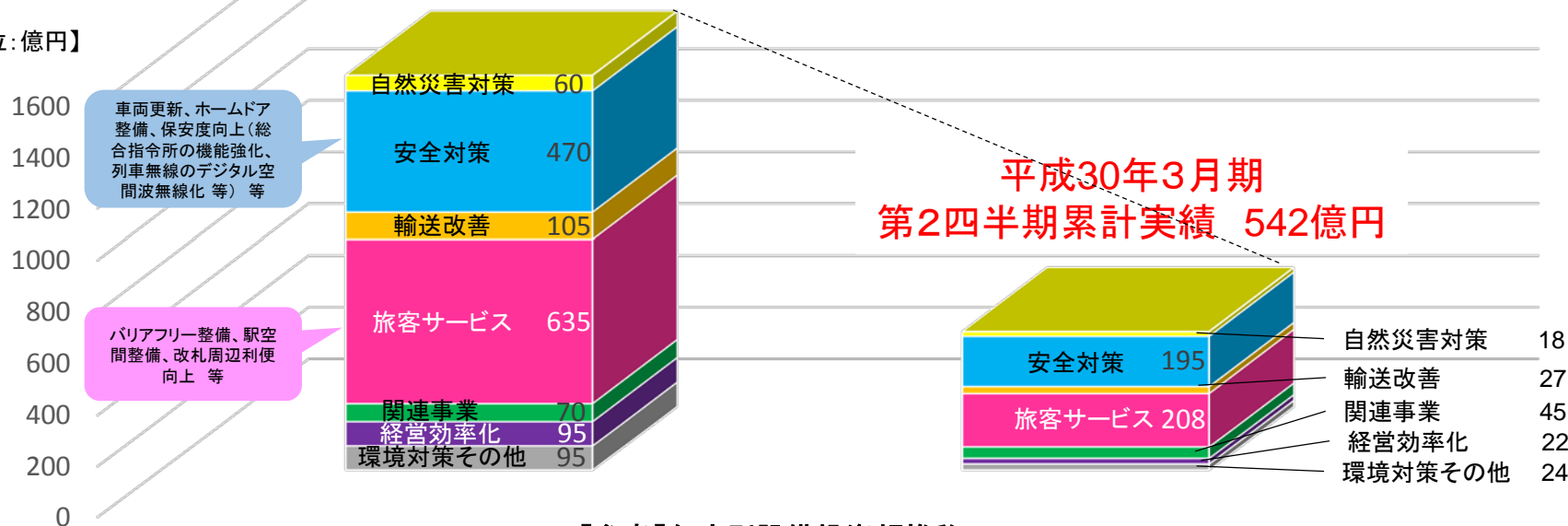
設備投資予算

- 施策の進捗が最盛期を迎える平成30年3月期においては、過去最高の規模となる総額1,530億円の投資を計画しています。
- 平成30年3月期第2四半期においては、安全対策や旅客サービスを中心に累計542億円の設備投資を実施しました。

平成30年3月期
予算 1,530億円

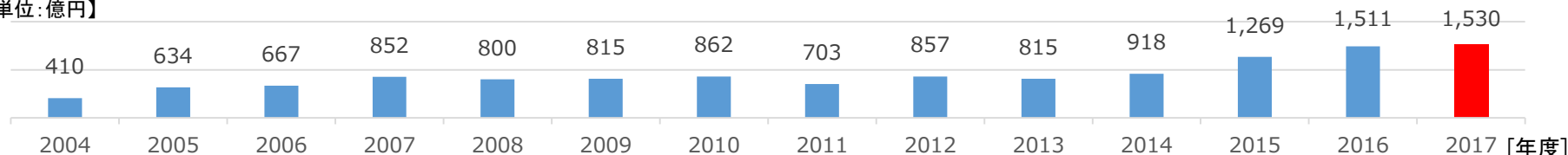
※億円単位切捨て表示

【単位：億円】



【参考】年度別設備投資額推移

【単位：億円】



※2017年度は予算を記載